

未来の居場所づくりシンポジウム in 東京 タイムテーブル

※時間は多少前後することもございます

日 時	内 容 (敬称略)
13:30	○受付開始
14:00	○開会宣言 伊藤 正俊 (KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 共同代表) ○来賓挨拶 ・自由民主党 衆議院議員 田畑 裕明 様 ・公明党 参議院議員 山本 博司 様 ・立憲民主党 衆議院議員 堀越 啓仁 様 ・内閣官房就職氷河期世代支援推進室 次長 黒田 岳士 様
14:15	○基調報告 「当事者本人、家族が求める居場所とその効果について」 境 泉洋 (宮崎大学准教授)
14:45	○社協の取り組み 「社協が未来の居場所づくりに果たす役割」 高橋 良太 (全国社会福祉協議会 地域福祉部長)
15:00	○行政説明 「ひきこもり支援施策における居場所の重要性」 安西 慶高 (厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 課長補佐)
15:20	○休憩 (10分)
15:30	○第一部シンポジウム (座長:境 泉洋) 【多様な居場所づくりと地域づくり～地域共生型・家族会協働型の居場所づくり】 「ひとりひとりのニーズに寄り添う顔の見えるネットワーク～」和田修 (北九州市ひきこもり地域支援センター) 「福祉制度を柔軟に利用した居場所の実践」佐藤祐治 (NPO 法人から・ころセンター総括若者自立支援員) 「住民主体の居場所づくり～地域や家族と共に～」後藤将来 (中野区社会福祉協議会) 「様々な立場の人が集う居場所の実践」市川乙允 (おとちか) (NPO法人楽の会リーラ事務局長)
17:00	○休憩 (15分)
17:15	○第二部シンポジウム (座長:池上 正樹) 【なぜ人が集まるのか?居場所づくりを当事者主体の目線から考える】 泉翔 (NPO 法人ウィークタイ代表理事) 田中敦 (NPO 法人レターポストフレンド相談ネットワーク理事長) Toshi (ひきこもり当事者・経験者) 林恭子 (一般社団法人ひきこもり UX 会議代表理事) ぼそっと池井多 (VOSOT (チームぼそっと) 代表理事)
18:55	○閉会の挨拶: 境 泉洋 (KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 副理事長)
19:00	○会場内でフリータイム歓談 ○記者レクチャー (20:00まで 6F 第二会議室にて、出演者と記者とのレクチャーを行います)
20:00	○終了

【出演者のプロフィール(出演者順)】

●伊藤正俊(いとう・まさとし)

1991年 山形県米沢市で「登校拒否の子を持つ親の会」を立ち上げ

1995年 山形県米沢市で「不登校親の会 山形県ネットワーク」を立ち上げ

2003年 同会を「ひきこもり家族会」に変更

2005年 全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会) 山形県支部として参加

2006年 特定非営利活動法人「から・ころ」開設 代表理事就任 ひきこもり本人の居場所を開設・運営

2010年 「から・ころ」が就労支援事業所として山形県から委託。

その後、就労継続支援B型作業所も受託し、高齢者宅への宅配事業やレストラン事業を運営

2014年 「全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)」 副理事長に就任

2016年 「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」に改称し、同年、共同代表に就任

●境 泉洋(さかい・もとひろ)

宮崎県生まれ。1999年宮崎大学教育学部卒。2005年早稲田大学 博士(人間科学)。公認心理師、臨床心理士。

2004年志學館大学、2007年徳島大学を経て、2018年4月から現職、宮崎大学教育学部准教授。

KHJ全国ひきこもり家族会連合会副代表、日本認知・行動療法学会事務局長、日本臨床心理士会ひきこもり対策専門委員会副委員長、内閣府「生活状況に関する調査」企画分析委員、NCNP精神保健研究所薬物依存研究部客員研究員、認知行動療法研究常任編集委員、認知療法研究常任編集委員、雑誌「臨床心理学」(金剛出版)編集委員。筆頭著書に「CRAFTひきこもりの家族支援ワークブック」(金剛出版)、編著書に「地域におけるひきこもり支援ガイドブック」(金剛出版)などがある。

●池上 正樹(いけがみ・まさき)

通信社などの勤務を経てジャーナリスト。日本文藝家協会会員。YAHOO!ニュース個人オナー。20年以上にわたって「ひきこもり」関係の取材を続け、1000人以上の当事者とやりとりしてきた。KHJ全国ひきこもり家族会連合会を発足当初からサポートし、現在は広報担当理事。東日本大震災後は被災地に入り、ひきこもり当事者が震災でどう行動したかを調査。TVやラジオにも多数出演。2012年から都内で開かれている対話の場「ひきこもりフューチャーセッション庵-IORI-」の設立メンバー。東京都町田市「ひきこもり」専門部会委員なども務める。著書は『ルポ「8050問題」～高齢親子“ひきこもり死”の現場から』(河出新書)、『ルポひきこもり未満～ルールから外れた人たち』(集英社新書)、『ひきこもる女性たち』(ベスト新書)、『大人のひきこもり』(講談社現代新書)、『ダメダメな人生を変えたいM君と生活保護』(ポプラ新書)、『あのとき、大川小学校で何が起きたのか』(青志社/共著)など。

【第一部シンポジスト】

●和田 修(北九州市ひきこもり地域支援センター・センター長)

不登校のための飲み会を定期的に開いたことがきっかけで、2009年より料理を作りながら集うフリースペース「かふゑバロン」を開き活動中。2017年より趣味を「ゼロから始める講座」、2018年より40代限定の飲み会「ばぁーバロン」を開催。

●佐藤 祐治(NPO法人から・ころセンター総括若者自立支援員)

山形県米沢市にある「から・ころセンター」で、ひきこもりの居場所を担当。利用者の要望に耳を傾け、障害の有無に関わらずどんな人でも安心して過ごせる居場所を目指して運営。その他、相談業務と就労支援活動などを行っている。

●後藤 将来(中野区社会福祉協議会)

2009年に入職。2015年より福祉何でも相談担当者。2017年より当事者団体の協力を得て区内有志の方とひきこもり者や家族を対象に同じ境遇の方と語り合う居場所「カタルーベの会」を立ち上げ共催。地域家族会の発足にも携わる。

●市川乙允(おとちか) (NPO法人楽の会リーラ事務局長)

2001年楽の会リーラ(KHJ東京支部)を発足。2013年より誰もが安心できる居場所となるコミュニティカフェ葵鳥(あおどり)を開設。2015年より北区にて地域で孤立しないために住民同士がふれあうサロンを地域家族会と共に開いている。

【第二部シンポジスト】

●泉翔(NPO法人ウィークタイ代表理事)

1987年生。大学在学時にひきこもり8年かけて卒業。ハラスメント被害や各種の依存症を経て、現在は精神科通院中の主夫。2014年から大阪にあるウィークタイの代表理事。「今は“生きづらさ”に依存しています。」

●田中敦(NPO法人レターポストフレンド相談ネットワーク理事長)

1999年不登校ひきこもり経験から当NPOを創設。設立当初から手紙を活用したピア・アウトリーチ活動を展開。2007年から当事者会SANGOの会を運営。2018年、札幌市の委託を受けひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務を担う。

●Toshi(ひきこもり当事者・経験者)

当事者団体「ひき桜」の運営スタッフとして、居場所およびピアサポート学習会に関わる。その他「ひきこもりフューチャーセッション庵」、「HIKIPOS(ひきポス)」の運営を行っている。

●林恭子(一般社団法人ひきこもりUX会議代表理事)

高校2年で不登校、20代半ばでひきこもりを経験。所属するUX会議では、UX女子会の全国展開、居場所づくりのノウハウを伝えるUXCAMPの開催を手がける。様々な立場の人が集う「新ひきこもりについて考える会」世話人。

●ぼそっと池井多(VOSOT(チームぼそっと)代表理事)

30年以上にわたる断続的ひきこもり当事者。中高年ひきこもりたちの情報交換の場「ひ老会」を主宰する一方、「ひきこもり親子公開対論」を開催、GHO(世界ひきこもり機構)世話人。VOSOT、HIKIPOSなどで当事者発信を手がける。

【司会進行】<開会～第一部> <第二部～閉会>

●深谷守貞(KHJ全国ひきこもり家族会連合会 本部事務局 ソーシャルワーカー)

大学卒業後、社会福祉法人東京都社会福祉協議会に入職。希少難病の発症と、自身の生きづらさに囚われて2年以上ひきこもる。KHJ「楽の会」の居場所参加をきっかけに生きづらさと向き合う勇気を得て、社会復帰・社会参加に至った。

2014年2月より特定非営利活動法人「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」本部事務局に従事。支援者研修の企画運営、8050世帯へのソーシャルワーク業務、「兄弟姉妹の相談会、居場所」を毎月担当。

●上田理香(KHJ全国ひきこもり家族会連合会 本部事務局長 家族相談士)

親子二重の断続的な社会的ひきこもりを経て、2012年よりKHJ全国ひきこもり家族会連合会に従事。家族会発足や居場所づくりなど、家族会における取り組みを支援。家族が孤立しないために家族支援の重要性を伝える。2013年より「ひきこもりピアサポーター養成研修事業」を企画運営実施。家族(親・兄弟姉妹)の相談会、親の学習会など多数。

以上